

第9回 西宮湯川記念賞贈呈式

西宮湯川記念講演会



昭和24年(1949年)
ノーベル賞授与式の
湯川秀樹博士



平成6年10月29日 午後1時30分～4時

〈にしのみやフレンテホール〉

主催／西宮湯川記念事業運営委員会・西宮市・西宮市教育委員会

受賞者のプロフィール

＊受賞者（共同研究）



あ く つ や す ひろ
阿久津 泰 弘

- 昭和30年(1955年)11月5日生 38歳
- 昭和54年(1979年)3月 東京大学工学部物理工学科卒業
- 昭和56年(1981年)3月 東京大学理学系大学院物理学修士課程修了
- 昭和59年(1984年)3月 東京大学理学系大学院物理学博士課程修了
理学博士取得
- 昭和61年(1986年)4月 神奈川大学工学部物理教室助手
- 平成2年(1990年)4月 大阪大学理学部物理学科助教授
- 平成5年(1993年)7月 大阪大学理学部物理学科教授 現在に至る



で ぐ ち て つ お
出 口 哲 生

- 昭和39年(1964年)9月20日生 30歳
- 昭和62年(1987年)3月 東京大学理学部物理学科卒業
- 平成1年(1989年)3月 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻
修士課程修了
- 平成2年(1990年)4月 東京大学理学部教室助手
- 平成4年(1992年)7月 東京大学理学系研究科 理学博士取得
- 平成6年(1994年)4月 お茶の水女子大学理学部物理学教室助教授
現在に至る

＊受賞研究 「可解統計力学模型に基づく結び目理論」

＊受賞理由

阿久津泰弘、出口哲生の両氏は、可解統計力学模型から結び目・絡み目の位相不変量である絡み目多項式を構成する研究において、数々の画期的な業績をあげた。特に、リー超代数に付随した絡み目多項式、ひもごとに異なる変数をもたせた多変数絡み目不変量、の構成を明らかにした両氏の共同研究は、国際的に高い評価を得ている。数学における永年の難問である結び目・絡み目理論が、統計力学における手法によって飛躍的に進歩したことはまさに驚くべき進展であり、両氏の研究は理論物理学のみならず位相幾何学の発展に大きな貢献を行った。

西宮湯川記念事業

湯川秀樹博士が、日本人として初めてノーベル賞を受けられた「中間子論」を提唱されたのは、苦楽園にお住まいの時でした。

それから50年を経た昭和60年に博士の門下生の方々が中心となって、「中間子論誕生記念碑」を苦楽園小学校校庭に建立されました。その碑文には、博士の著書「旅人」から「未知の世界を探究する人々は、地図を持たない旅人である」という言葉が、刻まれています。

西宮市では、これを契機に中間子論が本市で誕生したことを43万市民をはじめ内外に広く知っていただくとともに、文教都市西宮の誇りとしたいと考え、昭和61年から「西宮湯川記念事業」を実施しています。

この事業は、市民の方々に理論物理学を平易に解説し、基礎科学に対する正しい認識と、学生・生徒の科学する心を養うための「西宮湯川記念講演会」と、次の理論物理学を担う若手研究者の研究奨励を目的に、顕著な業績を修められた方に贈呈する「西宮湯川記念賞」、研究者による研究発表と討論のための「西宮湯川記念理論物理学シンポジウム」で構成されています。

この事業を通じて湯川博士の「真理を探究する心」と「平和への願い」が一層市民生活と教育実践の中に強く継承されることを念願しています。

湯川秀樹博士 略年譜

明治40年 (1907)	父琢治、母小雪の三男として東京麻布に生まれる(1月23日)
昭和4年 (1929) 22歳	京都帝国大学理学部卒業
昭和8年 (1933) 26歳	苦楽園の新居に住居
昭和9年 (1934) 27歳	中間子を予言。日本数学物理学会で講演、論文「素粒子の相互作用Ⅰ」(中間子論第Ⅰ論文)を投稿
昭和10年 (1935) 28歳	同論文を日本数学物理学会欧文誌に掲載
昭和14年 (1939) 32歳	京都大学教授となる
昭和15年 (1940) 33歳	甲子園口に転居
昭和18年 (1943) 36歳	京都に転居
昭和24年 (1949) 42歳	核力に関する中間子理論によりノーベル物理学賞を受ける
昭和30年 (1955) 48歳	ラッセル・アインシュタイン宣言の共同署名者となる。下中弥三郎氏・芽誠司氏らと世界平和アピール七人委員会を結成
昭和56年 (1981) 74歳	京都下鴨の自宅で永眠(9月8日)



苦楽園小学校校庭に建立された「中間子論誕生記念碑」